

まだ書きたいことが一杯あるが

僕が 四時にバス停で、バスに乗るとき、
あの子は すでに 三条京阪にいる。
三条京阪の 四時の急行で
いつも あの子は 帰宅するはず。

その事が頭にあった。
予想通り、今日もあの子に会えなかった。

寒くて、暗い夜道をとぼとぼと帰る。

今日は節分のはず。

しかし、家では 別に 豆まきも なにも
これと 言った節分の話題は 出なかった。

僕も 出さなかった。
ひっそりしたものだ。

代数、英作の予習をして、
英文解釈をして 床に入った。

十時ごろだった。

これで、今日は終わりだ。

床の中に入り、この日記帳を手にした。
そして、今日 一日を振り返って見た。

でも、もう 眠い、もう だめだ。

多分、他に書きたいことが何だったか
ここに書いて置かないと、未来の僕は 思い出せない。
永遠に 今日一日が 消えていくような 気持ちにする。
まだ、書きたいことが 一杯あるが。